

私は春休み中に、東京都夢の島で開催された一泊二日のバスケットキャンプに参加しました。キャンプには、全国から総勢八十人のメンバーが参加しました。

このキャンプには、小学生男子・小学生女子・中学生男子・中学生女子の四つのカテゴリーがあり、私は中学生女子のカテゴリーに参加しました。中学生女子のカテゴリーには中学一年生～三年生までが参加していて、私は最高学年の立場であったため、バスケのプレーや宿泊の班など様々な場面で、リーダーとしての役割を任せられました。キャンプに参加しているメンバーは、ほぼ全員初対面でした。私は一人っ子のためあまり自分より歳が下の子を、まとめることができるか不安でした。そのような気持ちを抱えながらではありましたが、私は班のメンバーができるだけ早く、打ち解けることができるように、みんなに話しかけて明るい雰囲気づくりにつとめました。そうしたところ、今まであまりしゃべっていなかった中一・中二の子も自分からしゃべるようになり、学年の壁をこえて、とても仲良くなることができました。キャンプで年下の子と接することがとても楽しくて、積極的に中一・中二の子と行動し、しゃべりました。ほとんどのメンバーの所属するチームには上下関係があり、敬語を使って話さなくてはなりません。しかし、キャンプでは年齢が異なっても、全員が同学年のように話したり、接したりするために普段の部活ではできないことでした。このように、キャンプでしか経験することができないことがたくさんあり、キャンプのプレー外の時間も有意義に過ごすことができました。

また、私はこの合宿でコーチからとても大切な言葉を教えてもらいました。それは、「成長は今自分がいる快適ゾーンから一步ふみだしたところでしか起きない。だから最初は慣れない環境のため不快だ。だけど、いつかそれが自分の成長につながる。それゆえに、自分がやりたくないと思っていることや、嫌なことを率先してチャレンジすることが、成長につながる」という言葉です。たしかに、自分がいつもと変わらないことをしていても成長はしません。自分がいつもと一つでも何か違うことや、嫌だと思っていることをすることによって、少しずつ成長します。私は、新しいことにチャレンジすることや、自分の意志を言うことが苦手です。しかし、コーチの言葉を聞いて自分を成長させるために、今までにしたことのない新しいことや、自分の苦手なことにチャレンジし、友達や初対面の人にもしっかり自分の意見を言えるようにしたいと思います。特に、中三は中学の最高学年として後輩のお手本になるべきだと思います。そのため、後輩から信頼され、自分に自信がある人になるためにも、自分を成長させる行動を少しずつしていきたいと思います。

このキャンプを通して私は、自分の視界がひろがっていくような感覚を覚えました。以前の私なら、初対面の人が多く、環境が異なるためキャンプに参加しようとは思いませんでした。でも、キャンプに参加したため、あこがれの友達や尊敬する友達ができて、もっとがんばろうという気持ちになりました。私にとっては、以前なら参加しようとは思わなかったキャンプに参加したことが成長だと思っています。このキャンプのような、自分を成長させるイベントにこれからもっと参加し、人から信頼されて、そして自分に自信のある人になりたいです。